

庁舎（那覇第2地方合同庁舎2号館）完成

特集
Special Edition

沖縄振興の拠点を目指して3月に庁舎移転

沖縄総合事務局が入居する那覇第2地方合同庁舎2号館が、那覇市おもろまちの新都心地区に完成しました。

2号館は、平成18年2月の着工以来、鋭意、建設が進められ、本年2月20日に完成し、現在、入居予定の沖縄総合事務局各部（総務部・財務部・農林水産部・経済産業部・開発建設部・運輸部）において移転作業が進められ、3月24日から新庁舎において業務を一斉に開始する予定です。

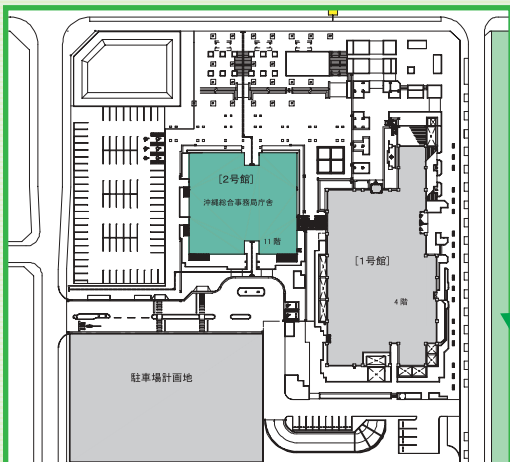
「沖縄振興計画」を推進する沖縄総合事務局の単独棟である2号館は、国の行政機関の中心拠点を形成する施設になっているほか、シビックコア構想への積極的な展開を通して、地域コミュニケーションの向上を図り「那覇新都心」における行政の核となる施設を目指しています。

また、新庁舎は省エネルギーやCO2排出量削減など環境に配慮した建物造りや、障害者の方々等にやさしいユニバーサルデザインを取り入れた施設になっています。

なお、新庁舎の概要や特徴等は、以下のとおりです。

（2号館の概要）

- ・場 所 沖縄県那覇市おもろまち2丁目1番1号
- ・構 造 鉄骨造（一部鉄骨鉄筋コンクリート造）、地下1階、地上11階建
- ・延べ床面積 16,128㎡
- ・入居官署 内閣府沖縄総合事務局



配置図



案内図・広域



沖縄総合事務局



▲3号館完成後のイメージ



▲歩行者の回遊性を創出するための「たまり空間」と1号館前にある既存のポケットパークを一体的に利用することにより、職員・来庁者のほか、地域の方々に憩いと潤いの空間を提供し、交流の場となるよう計画されたものです。

(新庁舎の特徴等)

1 環境に配慮した建物造り

2号館は1号館と同様、環境配慮官庁施設のグリーン庁舎として、省エネルギー及びLCCO₂削減のための多くの環境負荷低減対策を取り入れています。外壁へのルーバー(羽板)や庇(ひさし)の設置による日射遮蔽(しやへい)、さらに屋上緑化によるヒートアイランド対策を行うなど、次の対策を取り入れることで環境にやさしい庁舎づくりを行っています。

エネルギーの有効利用

地球温暖化係数が小さくオゾン層を破壊しない自然冷媒のアンモニアを使用した冷凍機や、深夜電力利用により夜間に製氷して昼間の冷房に利用する氷蓄熱設備を備えており、地球環境や電力負荷の平準化を考慮した空調設備を導入しています。

省エネルギー対策

2号館の外壁には、プレキヤストコンクリート一体型の



▲1号館屋上の太陽光発電装置



◀屋上緑化イメージ

庇と縦ルーバー、横ルーバーを設け、日射の遮蔽による熱負荷の低減を図っています。また、窓を利用した自然換気や自然通風を可能としています。事務室の照明については、昼光制御を行っており、部屋の照度をセンサーで感知し、二十五〜百パーセントに自動調光します。また、トイレは人感センサーにより照明の自動点灯、自動消灯を行います。

上にも、9kWの太陽光発電装置が設置されています。これは、平均的な住宅約2軒分の消費をまかなえる電力量を発電します。また、雨水や再生水をトイレの洗浄水、屋上緑化及び地上の樹木への散水用として利用しています。

自然エネルギーの利用

1号館と同じく2号館の屋

【注】「LCCO₂」とはライフサイクルCO₂の略です。CO₂の排出量を建設から運用、廃棄までトータルに見つめ、環境に及ぼす影響を総合的に考えたものです。



2 ユニバーサルデザインの採用

新庁舎には、来庁される高齢者・障害者の方々等にやさしい様々な装置等が施され、バリアフリー化された建物となっています。

快適で便利なトイレ環境
・多機能トイレを各階に設け、障害者はもちろん、高齢者や親子の利用に配慮しています。
・多機能トイレにはベビーシートを設け、乳児のオムツ

替えに活用できます。また、1階にはオストメイトの方に配慮した汚物流しを設けています。
・男女トイレには、それぞれ一カ所にベビーチェアを設置し、お子様連れでの利用に対応しています。
・多機能トイレ内での緊急時に備えて、呼び出しボタンを設置しています。
・男女トイレ及び多機能トイレ内には、火災時の難聴者対応として天井面にフラッシュライトを設置しています。



ベビーチェア



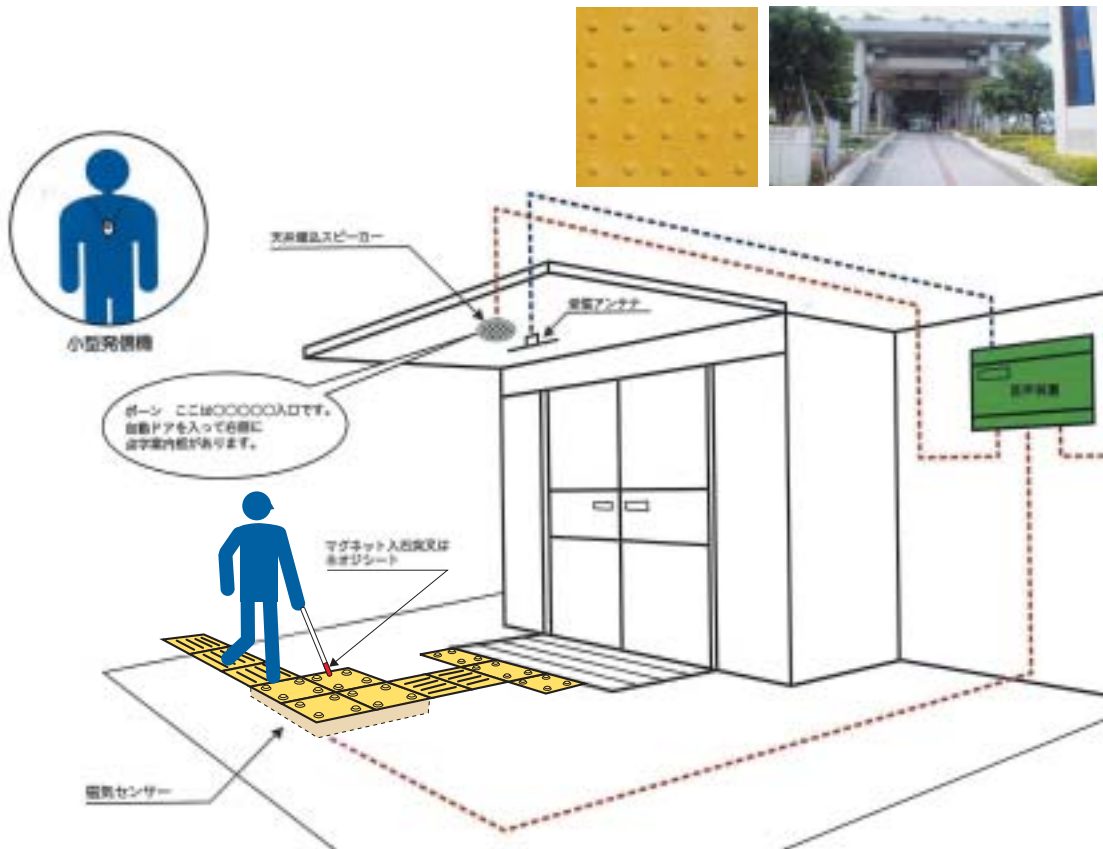
ベビーシート



トイレ呼出ボタン



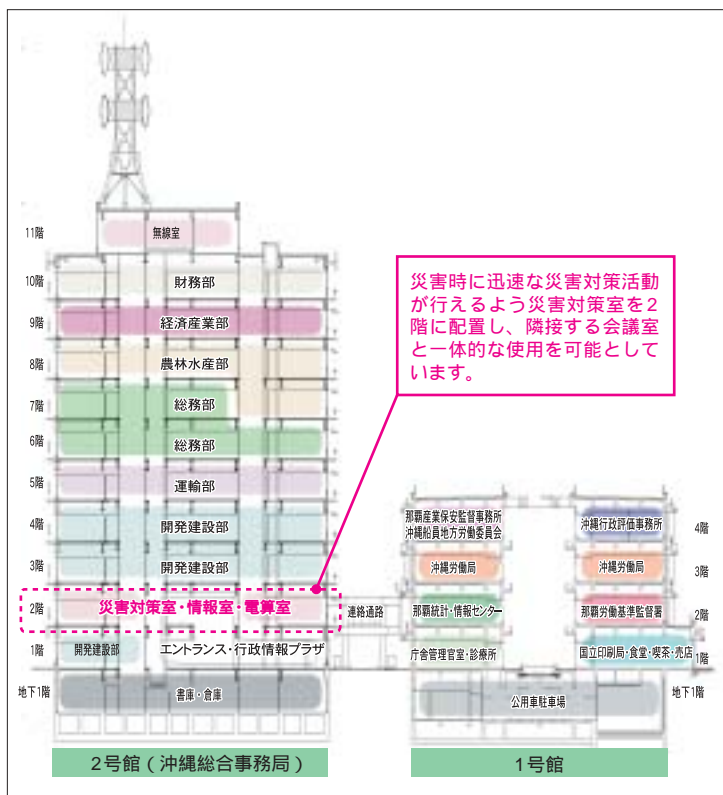
廊下灯



気持ち良く、わかりやすいアプローチ
・パーゴラと木陰による気持ち良い空間を創出しています。
・点字ブロックや二段手摺などによる、わかりやすく安全なアプローチにしています。

音声誘導装置
・主要な出入口に音声誘導装置を設置し、床の磁気センサーと天井面の受信アンテナにより出入口及びエレベーターホール案内など視覚障害者の誘導を行っています。

沖縄総合事務局庁舎(那覇第2地方合同庁舎2号館)完成



災害対策室（2階）
台風や地震等災害発生時に、迅速に対応ができるよう防災機能が備わっている専用の災害対策室が整備されています。沖縄総合事務局は災害対策基本法に基づく指定地方行政機関となつて、ことから、新庁舎の構造体、各部位設備機器類は「官庁施設の総合耐震計画基準」に基づき耐震設計が行われ、建物の耐力は、建築基準法の1.5倍相当が確保されています。

3 建物の主要施設



- （設置される機器等）
- ・大型ディスプレイ2台
- ・タッチパネル2台
- ・パソコン（HP専用）2台
- ・展示パネル等
- （情報発信の内容）
- ・庁舎案内
- ・沖縄総合事務局の紹介
- ・沖縄総合事務局の仕事
- ・組織と機構図
- ・写真で見る仕事



行政情報プラザ（1階）
来庁者の皆さんに対し、庁舎案内、沖縄総合事務局の仕事等行政情報の発信、閲覧サービスを提供する場として、行政情報プラザが整備されています。



事務室
事務室については大部屋方式で設計され、業務態勢の変化に対応できるように配慮されています。床は全面OAFロアで、電源ケーブルやLANケーブル等を床下に収納し、配線のやりかえも簡単にできる仕組みになっています。

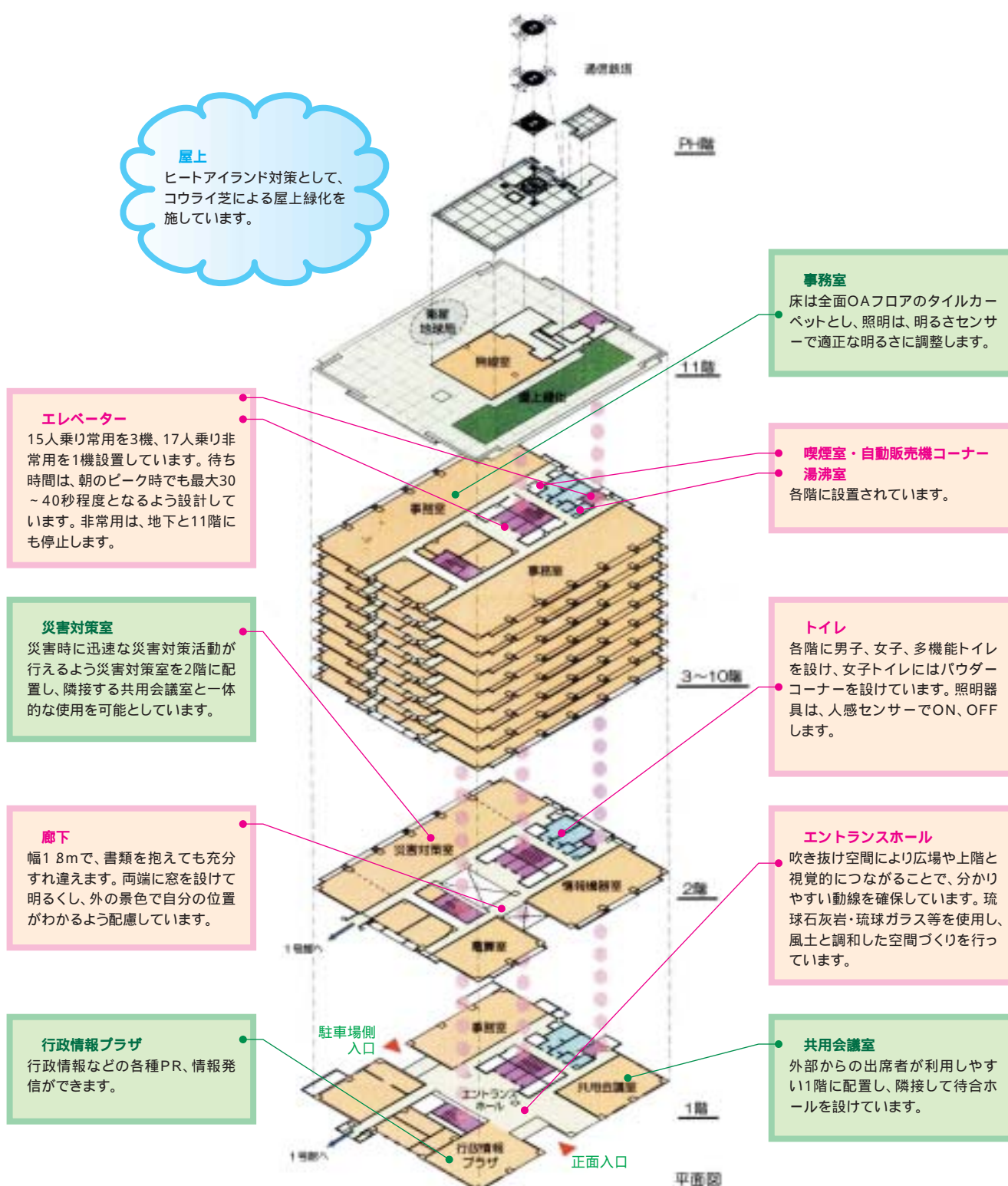
事務室内のパソコンやプリンターを始め、ファクシミリやコピー機等のOA機器を業務形態に合わせて自由に配置でき、快適な執務空間が確保されます。

- ・申請窓口案内
- ・相談窓口案内
- ・入札情報 等



那覇第2地方合同庁舎 2号館平面概要

建物全体の平面概要を紹介します。合同庁舎として将来の業務変化にフレキシブルに対応できるよう、事務室は大部屋方式を基本とし、最大奥行き10m、幅40mのスペースが確保できます。また、1号館と2号館は1階と2階の連絡通路で往来でき、1号館1階には食堂・喫茶・売店・診療所が設置されています。



沖縄総合事務局庁舎(那覇第2地方合同庁舎2号館)完成

那覇第2地方合同庁舎 2号館配置表

11階	開発建設部 災害対策関連	・無線室 ・電源室
10階	財務部	・部長室 ・証券取引等監視官 ・財務課 ・経済調査室 ・理財課 ・検査課 ・金融監督課 ・管財総括課 ・統括国有財産管理官 ・管財調査室 ・査定室 ・会議室
	経済産業部	・会議室
9階	経済産業部	・部長室 ・政策課 ・企画振興課 ・地域経済課 ・商務通商課 ・中小企業課 ・環境資源課 ・電力・ガス事業課 ・石油・エネルギー対策統括官
8階	農林水産部	・部長室 ・総務調整官 ・農政課 ・経営課 ・農畜産振興課 ・統計調査課 ・消費・安全課 ・食料流通課 ・首席企画指導官 ・農地相談室 ・製図室 ・検定室 ・食料流通課情報管理室 ・打合せ室
7階	総務部	・会計課 ・調査企画課 ・跡地利用対策課 ・振興企画官 ・監査官 ・入札室
	農林水産部	・土地改良課 ・林務水産課
6階	総務部	・局長室 ・次長室 ・部長室 ・総務課 ・秘書 ・人事課 ・公正取引室 ・主任調査官 ・情報管理官 ・特別会議室 ・会議室 ・研修室 ・部長室 ・企画室 ・総務運航課 ・船舶船員課 ・陸上交通課 ・監査指導課 ・車両安全課 ・総務調整官 ・国際観光調整官 ・海事保安・事故保障対策調整官 ・運航労務監視官 ・海事技術専門官 ・海技試験官 ・外国船舶監督官 ・聴聞室 ・改造車両審査室 ・失業保険閲覧室 ・海技試験室 ・受験者控室
5階	運輸部	・部長室 ・企画調整官 ・総務調整官 ・技術管理官 ・公園・まちづくり調整官 ・管理課 ・用地課 ・防災課 ・技術管理課 ・建設行政課 ・建設産業・地方整備課 ・収用認定調整官 ・景観環境事業調整官 ・監査官 ・主任工事検査官 ・工事検査官 ・災害査定官 ・用地官 ・入札室 ・事業審査室 ・事業調査室
4階	開発建設部	・港湾空港指導官 ・港湾計画課 ・港湾空港建設課 ・那覇空港プロジェクト室 ・港湾空港防災・危機管理課 ・河川課 ・流域調整課 ・道路建設課 ・道路管理課 ・港湾空港情報管理官 ・港湾空港技術対策官 ・河川・道路情報管理センター ・打合せ室
3階	開発建設部	・災害対策室 ・機器室 ・共用会議室
2階	総務部	・情報処理機器室
	開発建設部	・営繕調査官 ・営繕課 ・営繕監督保全室 ・官庁施設保全指導官 ・営繕技術専門官 ・営繕監督官
1階	農林水産部	・消費者の部屋
	総務部	・ホール ・行政情報プラザ ・情報公開窓口 ・個人情報保護窓口 ・記者室 ・共用会議室 ・来客用喫煙室 ・資料室 ・文書集配室
B1	総務部	・備蓄倉庫 ・レク用品庫 ・多目的室 ・地籍関係資料保管庫 ・返納物品保管庫 ・総務部書庫 ・財務部書庫 ・農林水産部書庫 ・経済産業部書庫 ・開発建設部書庫 ・運輸部書庫
共通	1F～10F	・女子トイレ ・男子トイレ ・多機能トイレ ・ゴミ庫 ・湯沸し室 ・職員用喫煙室

沖縄総合事務局庁舎(那覇第2地方合同庁舎2号館)落成おめでとうございます



沖縄総合事務局OB会会長 島袋 幸松

平成20年初頭に、ふさわしく、待望の久しかった沖縄総合事務局庁舎(那覇第2地方合同庁舎2号館)が復帰36年目にして立派に完成できましたのも、ひとえに、この大事業にご尽力された関係各位のご理解とご協力のたまものと深く感謝申し上げます。

祖国復帰当時、沖縄総合事務局が入居していたビルは、竣工間際の民間ビルで、内装工事も仕上がっておらず、冷房工事も手がけてなく、職員は、6月の梅雨期に蒸しかえる室内で山積する復帰事務処理に悪戦苦闘していました。

私は財務部で復帰当初から庁舎建築の用地確保に携わり、建築用地として国有地の選定を行い、那覇市や県当局者と頻繁に折衝を繰り返していました。

最初に選んだのが那覇商業高校となりの現在の松山公園、次に米軍から返還された儀礼ガソリンタンク跡地、最後は旧刑務所跡地(現那覇第1地方合同庁舎)で、何処も問題がありました。

松山公園は、当時米軍の家族宿舎でしたが、那覇市が都市公

園の指定の網をかぶせていました。与儀のガソリンタンク跡地は、過密校解消のため小学校敷地として選定されており、最後の旧刑務所跡地は、市民から公園敷地として開放せよとの陳情とデモ行進が繰り返され、話し合いの結果、敷地を二分割し、半分は公園、後の半分は国の那覇第1地方合同庁舎として決着しました。

国の総合出先機関である沖縄総合事務局が民間ビルの借家住まいでは、職務執行に支障を来し、県民へのサービスも充分対応出来ず苦労してきたことと思います。

幸いにして、那覇新都心の核になるシビックコア地区に、来るべき高度情報化社会への対応を兼ね備え、OA化された斬新な沖縄総合事務局庁舎が完成し、新庁舎での執務が出来ることは、先輩としてこの上ない喜びであります。

これからは、新庁舎を拠点に新しい施策を展開し、内閣府の地方支分部局として、内閣の重要施策に関する企画立案及び総合調整等の任務の一翼を担いつつ、沖縄県の自立的発展のため「平和で明るい活力ある県づくり」に精進してまいりますよう、お願い申し上げます。